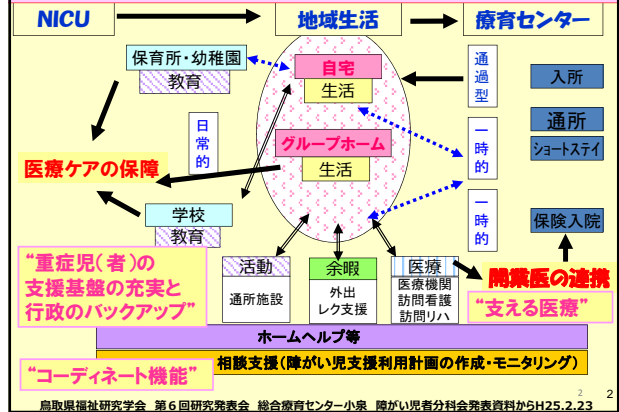


地域の療育・保育・教育体制の理解

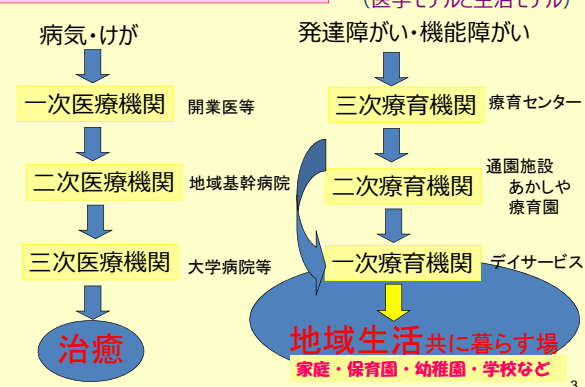


鳥取県立総合療育センター
社会参加部長
小泉浩二

重症児(者)の地域生活支援イメージ図



生活重視の療育の流れ



肢体不自由児施設 → 複合的な療育施設 (医療型障害児入所施設)

- 多様なニーズを有する軽度～重度の「肢体不自由児」への外来・入所での幅の広い支援
リハビリテーション、整形外科手術—療育の基盤を持つ小児整形外科治療、有期有目的入院・入所（短期集中リハビリ、ソーシャルスキル援助の自立援助等）
- 重症心身障がい児者の在宅療育支援、医療
外来診療・療育、通園、親子入園など療育援助入所、レスパイト入所などの短期入所援助、手術・リハビリテーション、一定範囲の緊急医療入院、長期入所
- 虐待による障がい児、被虐待・家庭養育困難障がい児への対応
外来での予防的対応（日中一時支援、通園）
短期親子入所による母親支援、短期入所、家庭養育困難例の長期入所

4. 「発達障がい児」への、医学的な面を含む外来での支援、療育

ST、OT、心理士、小児神経科医、児童精神科医などマンパワーを生かして

5. それぞれの面での、地域機関(地域通園通所施設、学校、保育園等)の支援(バックアップ)機能

障がい児等療育支援事業(訪問療育・施設支援等)による地域支援

6. 障がい児相談支援事業

サービス等利用計画・障がい児支援利用計画の作成

通過型施設としての地域移行の取り組み

(参考) 地域移行推進モデル事業

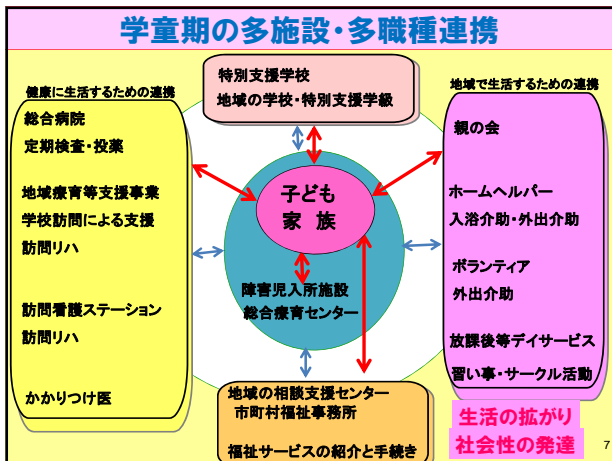


- 平成25年度独立行政法人福祉医療機構

医療的ケアの必要な重症心身障害者の病院・施設からの地域移行推進モデル事業 報告書

特定非営利活動法人びのきおのケアホームでの取り組みについて

※特定非営利活動法人わーかーびーのホームページから報告書のダウンロード可能



極低出生体重児ソーシャルワーク実践モデル

【実践モデルの構成要素】

拠って立つ実践理論

- 一般的なソーシャルワーク理論
⇒ジェネラリスト・アプローチ
- 2次的な機関での実践に必要な理論
⇒岡村理論
- 特有の分野において必要な理論
⇒児童・家庭ソーシャルワーク論

実践の対象

- ソーシャルワークが向かう対象者と問題

⇒ソーシャルワーカーは、新生児が医療の対象として扱われる保健医療施設においては、子の母親も援助の対象とし新生児とセットで生活支援をしていく視点を持つ。

平成22年科学研究費補助金成果報告書「極低出生体重児へのソーシャルワーク実践モデルの開発」 8
代表研究者 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 宮崎清直教授

